

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 第16号 平成17年6月1日発行

発行所：中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

ペインクリニックって何？ 疼痛治療の意義と対象疾患

麻酔科医師 浅野 斗志男



患者さんが医療機関を受診する理由として、「痛み」は大きな比率を占めています。この場合、痛みは警告信号であり、人の身体のどこかに異常があることを示す重要な症状です。

しかし痛みは全ての局面において常に必要なのでしょうか。たとえば手術後の耐え難い痛みはむしろ合併症を増やす可能性があり、近年では持続硬膜外ブロックを中心とした術後鎮痛を考慮するのが一般的になっています。最近の研究では痛みが長期間持続すると脊髄などの中枢神経系で、痛みをつたえる細胞の数や痛みの神経伝達物質の受容体が増えることが明らかになっています。これらの変化を「痛みによる中枢神経系の感作」とよび、治療に抵抗する「慢性痛」が形成される原因の一つと考えられています。

ペインクリニックは痛みの診療を専門とし、あらゆる痛みが対象になりますが、本邦では「神経ブロック」に重点をおいた痛みの診療がこのようによばれています。

麻酔科外来で主に行う神経ブロックは局所麻酔薬を用いた星状神経節ブロック、トリガーポイントブロックおよび硬膜外ブロックで、主な対象疾患は手術適応のない頸肩腕痛・腰下肢痛、外傷や神経損傷後におこる反射性交感神経性萎縮症やカウザルギー（複合性局所疼痛症候群）や帯状疱疹後神経痛です。また、会話や食事のたびごとに耐えがたい激痛が顔面を発作的に襲う特発性三叉神経痛には神経破壊薬を用いることもあります。

慢性的に痛みが続くと多くの患者さんは不眠から抑うつ状態になってしまいます。このような痛みは単に患者さんの日常生活を制限する以外の何物でもありません。また、痛み以外にも顔面神経麻痺、突発性難聴なども星状神経節ブロックの適応となります。4月現在、当院では、麻酔科外来は週3回（火・木・金曜日）行っています。痛みを主とするこれらの疾患は、慢性化させないためにも「急性痛」からの治療が重要ですので、早めに当科にご相談ください。

麻酔科 (ペインクリニック) 8:45~11:30

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
	浅野 斗志男		古橋 亜沙子	浅野 斗志男

循環器科領域の 非侵襲的検査について



循環器科医師 横井 公宣

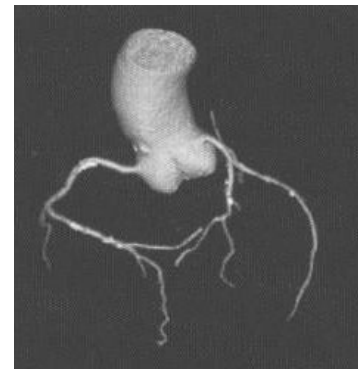
最近では循環器科領域でも非侵襲的検査をスクリーニングとして行う事により、重篤な疾患を早期発見および早期治療する事の重要性が話題となっています。

運動負荷心電図検査（トレッドミルテスト）は心電図を装着した状態で目標心拍数（ $(220 - \text{年齢}) \times 0.85$ ）に達するまで台上で歩行を行い、症状/心電図変化/血圧などから短時間で虚血性心疾患/不整脈等の評価を行う事ができます。現在医師立ち会いのもとでの心臓超音波検査と合わせた検査を、水曜日を除く平日の午後3時から5時に実施しており、院外からの予約も受け付けております。

四肢の血圧を同時に測定する四肢血圧測定検査では、上下肢の血圧の比（APBI = Ankle Brachial Pressure Index）を算出してその値を評価する事により、閉塞性動脈硬化症の評価およびスクリーニングを行う事ができます。

さらに本年秋の新病院への移転と同時に、従来より少量の造影剤の点滴でより鮮明な画像の撮影が可能な64列マルチスライスCTの導入が決定しております。これにより心臓カテーテル検査/四肢血管撮影に匹敵する程の冠動脈/四肢動脈の3D-CTの撮影が可能となります。

当院循環器科では、症状出現および重症化する以前に非侵襲的検査を実施する事により、疾患の早期発見および早期治療を目指したいと考えております。糖尿病/高血圧/高脂血症等の動脈硬化性病変の危険因子を有する患者様の狭心症/閉塞性動脈硬化症等のスクリーニング検査を、是非とも当院にご依頼下さい。よろしくお願い申し上げます。



循環器科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	南木 道生 植谷 忠之	南木 道生 丸井 伸行 部長	加藤 真隆 横井 公宣	丸井 伸行 部長 立松 康	加藤 真隆 安藤 博彦
午後	植谷 忠之	南木 道生	加藤 真隆 横井 公宣	丸井伸行部長 立松 康	安藤 博彦

クラミジア感染症について



産婦人科医師 津田 弘之

●クラミジア感染症とは

クラミジア感染症 (Chlamydia trachomatis) は、近年世界的に最も頻度の高い性感染症として知られ、わが国でもその蔓延が社会問題となっています。実際わが国でも1992年以降、淋菌感染症に代わり最も多い性感染症となり、その患者数は年々増加傾向にあります。

本症は自覚症状が少ないことが多い(不顕性感染)のが特徴で、このことが感染の潜在化、蔓延化につながっていると考えられます。

本症は女性に多く(男性の2倍以上)、20~24歳の感染者が全体の約3分の1と若年者への感染が目立ちます。近年では10代の感染者が急増しています。

●治療

治療はマクロライド系あるいはテトラサイクリン系の抗生物質が中心です。注意すべき点は、罹患した本人のみならずそのパートナーにもしっかり治療を行うことです。また、コンドームの使用などの感染予防につき十分な教育も必要です。

●臨床症状

①子宮頸管炎

異常分泌物、不正性器出血、下腹部痛など。無症状のことも多い。

②尿道炎

頻尿、排尿痛など。

③PID (pelvic inflammatory disease)

(骨盤内炎症性疾患)

無治療のクラミジア感染症の約30%がPIDに発展します。卵管炎を引き起こし不妊症、子宮外妊娠の原因となったり、卵管・卵巣膿瘍の破裂などにより敗血症になることもあります。

④肝周囲炎

(Fitz-Hugh-Curtis症候群)

クラミジアが卵管の腹腔開口部から腹腔内に入り、肝臓の周囲に炎症を生じることにより起こる疾患です。右季肋部痛や胸膜炎様の痛みを生じ、胆道系疾患との鑑別が必要なこともあります。

以上のように本症は、局所の炎症から敗血症に至るまで多彩な症状を示し、若年者に多いことから妊孕性の低下も問題となります。少子化が進む現在、本症の蔓延は我々にとって由々しき問題です。感染予防に対する教育や早期発見・早期治療の徹底が重要です。

産婦人科 8:45~11:30

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
産科	中西 豊 副部長	加藤千豊部長	加藤 千豊 部長	津田 弘之	川地 史高
婦人科	中西 豊 副部長 津田 弘之	加藤千豊部長 川地 史高		佐藤 菜々子	中西 豊 副部長 津田 弘之

連携室だより

循環器科検査予約

平成17年5月1日から、循環器科検査予約を平日19:30までお受けすることと致しましたので、お知らせします。

<検査内容>

- ①心エコー&トレッドミル運動負荷検査
- ②心エコーのみ

<上記検査の時間帯>

- ①水曜日以外の平日15:00~17:00
検査時間は30分です。
- ②水曜日以外の平日14:00~15:00
検査時間は20分です。

<概要>

循環器科医師が問診をおこない、医師立ち会いのもとで検査技師と施行します。

<依頼票>

システムのご案内P.16をご利用下さい。
紛失された方は下記までご連絡下さい。

<予約日>

翌日以降のご予約が可能です。

<回答>

依頼をいただきましたら15分以内に紹介元医療機関へ予約日を回答させていただきます。その際に、「患者さまへ受診のお知らせ」もお送り致しますので、お手数ですが患者さまへお渡しください。当院での受診案内を掲載しております。

医師交代

☆辞職 (平成17年3月31日付)

岩田 博英	外科副部長
平本 哲哉	心療内科医師
飯田 美紀	麻酔科医師
市川 崇	麻酔科医師
丸野内 暢彦	神経内科医師
二村 奈津子	腎臓内科医師

☆採用 (平成17年4月1日付)

安藤 博彦	循環器科医師
八谷 カナン	リハビリテーション科医師
木口 らん	リハビリテーション科医師
石原 俊一	放射線科医師
横山 寛明	心療内科医師
赤羽 和久	外科医師

セミナー

平成17年度第1回中部労災病院病診連携セミナー及び懇親会を開催します。

日時：平成17年6月27日(月)

セミナー 14:00~15:00

懇親会 15:00~15:30

場所：中部労災病院桜盟館

セミナー 大会議室

懇親会 小会議室

セミナー・テーマ等

セミナー・テーマ：「不随意運動に対する
ボツリヌス療法について」

演者：榊原敏正(神経内科部長)

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30)
052-652-5716 (FAX・TEL)
052-652-5950 (TEL)

室長：小林 建仁(副院長)
佐野 隆久(副院長)
事務担当：河野奈々・金井久実